

Monthly Letter

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～令和元年度)
『地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学



COC+事業の外部評価者による実地評価 「更なる発展と継続を!!」 評価者からのエール

12月3日(火)、福井大学文京キャンパスにおいて、令和元年度ふくいCOC+外部評価者による実地評価が行われました。今回は平成29年9月1日に実施された前回の評価結果を踏まえ、その際にご指摘いただいた改善点を併せ、平成29年度から本補助事業最終年度である今年度までの、いわば一つの総決算となる評価であります。

当日は、寒波が襲来する北陸の冬らしい寒空の下、岐阜大学 地域協学センター長 シニア教授 益川浩一先生を主査とする4名の外部評価者の先生にお集まりいただき、COC+事業の連携5大学の各代表者らと事業推進コーディネーターが説明者として実地評価に臨みました。



評価分野は「実施体制」「教育」「大学連携」「地域連携」「全体」という5つの視点で構成され、ふくいCOC+事業推進協議会議長の上田福井大学長の挨拶に続き、評価者、説明者双方の自己紹介を経て、益川先生の進行で進められました。評価方法として、事前に外部評価者の皆様に事業実施内容に関する評価資料に基づき事務局から説明を行い、予め検討をいただいた上、実地にて説明者からのヒアリングを踏まえ、不明点などを確認するなど、約1時間半に渡り集中したやりとりが交わされ、本事業の評価・講評をいただきました。

その後、主査の益川先生から全体の総括としての講評が示された後、各分野を担当した評価者から担当分野に関することから全体に関することまで、率直な言葉でご意見をいただきました。

講評では、全体を通して、「当該事業は地元産業界・行政・教育機関等が一体となり、地元企業で活躍できる人材を育成するという地域創生に資する取り組みを進めていることを確認した」ということで、高く評価いただきました。また、「これを更に発展・継続させ取り組みを進めてもらいたい」という付言をいただきました。

具体的には、①実施体制:「事業継続のためのコストシェアの十分な検討」、②教育:「ふくい地域創生士のプレゼンスの向上と卒業生のフォロー、周知方法の改善」「教育成果の見える化」、③大学連携:「和田de路地祭のような活動の他地域への展開」「産業的課題への挑戦」「高校生を巻き込んだ高大連携での活動」、④地域連携:「保護者との連携」「企業へのアプローチ」「幅広い高校との連携」といった点を更に進めていくことが示されました。PDCAでいえば「C」をいただいた今回。これをどのように、次の「A」そして「P」に繋げていけるかが問われます。

この講評を受け、最後にふくいCOC+事業推進責任者 末福井大学理事・副学長の挨拶でも触れられましたが、今回の外部評価では大変前向きで建設的なご意見をいただき、まさに「エール」をいただいた印象の評価となりました。事業に対する熱い期待を感じると共に、責任の重さをひしひしと感じ、いただいたご指摘・ご助言を元に、これをいかに前に進め、次に繋げていけるかというところを強く思い致される外部評価となりました。令和2年度以降の継続・発展として、まだ見えない部分もありながらも、講評の前の休憩時間に和やかな雰囲気の中、時間の許す限り会話を弾ませる各大学の学長、副学長の姿こそが、大学の枠を越え、全国から高く評されるまで実績を重ねてきた、まさにふくいCOC+事業の賜物であり、福井の誇るべき財産として、これからも更に輪を拡げながら、発展させていかなければならないと参加者一同、思いを新たにしました。



終わりに添えて、この度は事前の検討も含め、長時間にわたる評価をご担当くださいました先生方に心からの敬意と感謝を申し上げ、いただいた評価とその熱意に恥じぬよう活動を進めていきたいと思っております。この度は本当にありがとうございました。

2019年12月14日(土)に、ふくいブランドWGの最終成果報告会をAOSSA7階 Fスクエアにて開催しました。福井大学とWG代表校を務めた福井工業大学から5件の成果報告を学生が行いました。

その後、記念フォーラムとして新山直広様(TSUGI代表)、三田村敦様(GOOD MORNING代表)、山口祐弘様(ファニチャーホリック代表)の専門家各氏より、「地域資源を活かすブランディング活動の現場から」のテーマで最近のお仕事をご紹介いただきました。次にWG代表の私の進行で、3人のゲストとのトークセッションを行い、福井の地域資源のこれからや大学ができることについて意見交換しました。締めにはCOC+事業責任者である末信一郎福井大学理事・副学長より総括をいただき、5年間の取組みに一つの区切りをつけました。

両大学の学生と教職員を中心に約50名が参加し、また福井新聞と日刊県民福井の取材も受け、各紙掲載されました。COC+の期間が終わってもこの活動は継続していきたいと思えます。お世話になった大勢のみなさまに感謝申し上げます。

(福井工業大学 環境情報学部 デザイン学科 教授 川島 洋一先生より寄稿いただきました)



企業の人材採用・育成を考える ～ 2019年度 福井型「新採用学」研究会が終了 ～

2017年7月、福井大学にて開催されたシンポジウム「今、求められる“採用力”～神は細部に宿る～」を契機に、福井県の補助を受け地域企業等とスタートした、「福井型『新採用学』研究会」(以下、「新採用学研究会」)は、今年11月末のワークショップをもって、3年間の事業を終了しました。

福井県には、世界に通用する技術を持つ企業が多く存在し、人材の採用に積極的で、グローバルに活動している企業も多くあります。ただ企業にとっては、有効求人倍率が全国トップクラスであるなど、他の地域に比べ、難易度が高いのが現実です。そのため、「新採用学研究会」では、優秀な人材の獲得するために、企業はどうしたら良いのかをテーマにスタートしました。

3年間で12回の研究会と2回の報告会を開催し、また8回のワークショップを実施しました。毎回約30人から60人の企業、行政、大学関係者が参加し、熱心な議論が交わされました。

研究会には、「採用学」の第一人者である、神戸大学大学院経営学研究科 准教授 服部泰宏先生(スタート時は、横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 准教授)にご講演いただき、また、ワークショップには、同志社女子大学 現代社会学部 現代子ども学科特任教授 上田信行先生他のご協力を得てご指導いただき、採用だけでなくとどまらず、入社後の人材育成のポイントを含めた研究を行ってきました。

若手社員の獲得と成長は、企業にとっては将来を決定する重要なテーマです。参加していただいた企業の皆さんは、熱心に取り組んでいました。研究会に参加された皆様と、ご協力をいただいた先生方に感謝申し上げます。

(福井大学 地域創生推進本部 特命教授 吉田史朗先生より寄稿いただきました)



編集後記

異動による着任後、約半年が経過しました。相変わらずわかることよりわからないことの方が多い状況ですが、日々、勉強させていただいております。先日は外部評価にも陪席し、多くのご意見を頂戴でき大変学ばせていただきました。補助事業の終わりが見えてきた今、ここまで積み上げてきたものを次にどう繋げていくのか、何が地域にとって一番良いかたちなのか、まさに今、大学の「知」が問われています。(小池)

